

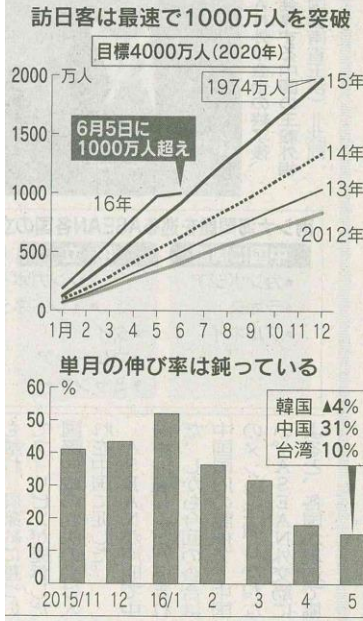
訪日客数 先行き不安も

最速1000万人勢い保つには…

民泊整備や情報提供

訪日外国人観光客の拡大が続いている。観光庁は15日、2016年の訪日客が過去最速ペースで1000万人を超えたと発表した。ただアジア経済の減速や円高、熊本地震といった逆風もあり、高い伸びは鈍っている。訪日客を増やし続けるには、魅力ある観光地のアピールや、宿泊施設などの受け皿づくりが欠かせない。（1面参照）

訪日客は15年に1977万人、14年に1974万人、13年に1974万人、12年に1974万人と14年の1・5倍、透明感や円高、熊本地震などに急増した。16年になど不利な条件がありつつも、前年を上回るペースが続く。観光庁の田村比古長官は15日の記したと述べた。



の一端。

順調に増える訪日客だが、足元で伸びは鈍っている。1月は52%増だったが、4月は18%増、5月は15%増にとどまった。4月以降は熊本地震の影響も出た。九州はアジアの観光客が多く、観光庁は訪日見合わせなど

十数万人の影響が出たとみる。5月単月では、韓国の訪日客が23カ月ぶりにマイナスに転じた。SMBC日興証券が訪日客数を季節調整でならしたところ、2月の213万人をピークに3、5月は減少が続く。宮前耕也シニアエコノミストは「訪日消費は1～3月期の実質国内総生産(GDP)成長率を0・3%押し上げて景気を下支えしたが、4～6月期は成長率の押し下げ要因になりそう」と話す。政府は20年までに訪日

客を4000万人に増やす目標を立てた。魅力的な観光地や民泊の制度づくりなど幅広い取り組みが必要だ。熊本地震では外国人への迅速な情報提供など課題も浮かんできた。政府は被災した観光名所の復旧などあわせて、外国人が旅行しやすい環境整備に力を入れる。